

7月13日（月）国際フォトジャーナリストによる講演会（林典子氏）

- 日時 平成27年7月13日（月）15:30～17:00
- 演題 フォトジャーナリストとしての私の生き方
- 講師 林典子氏（参加生徒人数 30名）



[林典子氏による講演]



[ガンビアの新聞を紹介する林氏]



[生徒からは多くの質問が寄せられた]

【生徒からの質問と回答】

生徒達からは、「異文化に入る時に大切なことは？」「女性だからこそできたことは？」「今後取材したいことは？」など、様々な質問が投げかけられた。林氏から、下記のような回答とメッセージを頂いた。

● 異文化ではお互いの価値観が異なるのは当たり前であり、優劣は絶対につけないと自分に言い聞かせている。現地の方に滞在する時には、生活スタイルを100%受け入れる。今まで、仕事の上で女性だからやりにくかったことは一つもない。家に泊めてもらえたり、危険な地域で現地の方の兵士に守ってもらえたりしたのは、むしろ女性だからであり、この仕事は女性の方がやりやすいのかなと思っている。今後、取材したいことはいろいろあるが、独裁政権の下に国を追われたガンビアのかつての同僚たちに会い、その後の生活や彼らの思いを世界に伝えたい。ジャーナリストの仕事に誇りを持ち、仕事のやりがいについて気付かせてくれた彼らに、少しでも恩返しができたら嬉しいと思っている。

【林典子氏のプロフィール】

昭和中学校・昭和高校 卒業生。大学時代に西アフリカのガンビア共和国を訪れ、地元新聞社「The Point」紙で写真を撮り始める。現在は、英ロンドンのフォトエージェンシー「Panos Pictures」に所属している。

【ご講義の内容】

□ガンビアの新聞社で写真を撮り始めるまで

□イギリスのフォトエージェンシーに所属するまで

□被写体と一緒に生活しながら写真を撮る理由

- ・ 被写体の自然な姿を撮るためには、相手が自分の存在を気にしなくなるレベルまで一緒に生活してから、レンズを向ける必要がある。

□これまで取材してきた人々とのエピソードについて

- カンボジア：HIVに母子感染した男の子の暮らし
- パキスタン：硫酸に顔を焼かれた女性たち
- キルギス：誘拐結婚 など

□フォトジャーナリストという仕事への思い

- ・ やりがいを感じ、一生続けたいと思える仕事に出会えたことが幸せである。
- ・ “私が関心を持つテーマの取材”と、“仕事としての取材”のバランスをとりながら活動したい。

□高校生の皆さんへ

- ・ 学生の時に、自分が本当に興味を持ったことについては、とことん追求すべきである。私は、この学校で「私の研究」をした時に、“自分は知りたいことをとことん追求したい性格なのかな”と考えた。それは、今の仕事に通じていると思う。